

もう小学生！

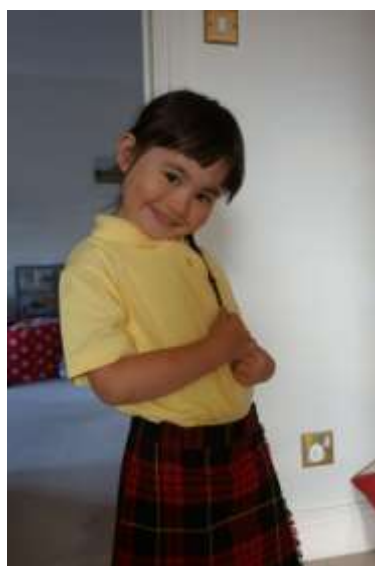
4歳8か月のマヤは9月5日に小学生になりました。半年前はかくれんぼをするときに、まず「ここに隠れなさい」とマヤが指示してから「もういいかい」「もういいよ」と言いつつ「探し」に来るような幼さだったので、大丈夫かしらとこの日を気にかけていました。

初登校日の写真では、制服の赤のスカートが地面についてしまうのでは…というくらい長く、黒の上着の袖からは指が少ししかのぞいておらず、小柄なマヤは制服に負けていました。でも気持ちは負けていません。2, 3日して母親が迎えに行ったら、先生の横で腰に手を当てて抗議行動をしていたそうです。自分の名前が書けた男の子を先生が褒めたからです。私も書けるのにどうして私を褒めないのよ！だったのです。

それから数日して、マヤは椅子に座った姿勢がバナナのようにではなく、まっすぐだということで賞状をもらい、得意顔だったそうです。「猫背」のことを「バナナのよう」というのだと、バナナのような私は学びました。一クラス、12, 3人しかおらず、担任のミセス・ウェブは子供たちのことをよく把握していて、一人一人の良い所を見つけて順番にほめているのでしょう。

9月14日、近くの聖トマス教会で入学のセレモニーが行われました。1年生全部で40人ほどですが、親やおじいちゃんおばあちゃんも出席して、短時間の祝福の式だったそうです。学校がイギリス国教会に連なっているの、この教会で行われたのでした。学校では入学式はなく、初日からいきなり普通の学校生活が始まりました。

日本では入学式は人生の一大イベントで、校長先生、来賓の挨拶、在校生の歓迎の言葉と校歌斉唱が必ずありますね。イギリスの学校には校歌がありません。イタリア出身のフェデリカも日本の学校にはそれぞれ校歌があると知って驚いたそうです。校歌は明治時代に「価値観や思想を統一する訓練手段であり、…祝典や行進の際に皆で同じ歌を合唱することは、集団生活において統制心を養う」として発生したとウィキペディアに説明がありました。出身校を懐かしがって同窓会で校歌を歌う場合もあるそうですが、「価値観や思想を統一された」から日本人は同調意識が強くなったのか、あるいはすでに同調意識が強かったのに教育でさらに強まったのか…。いずれにせよ軍国主義に日本を染め上げるときに役立ってしまいましたね。



小学校初日のマヤ